

マルコによる福音書 10 章 46-52 節 盲目な弟子

本日は、マルコによる福音書 10 章 46 節から 52 節に描かれているマルコによる福音書 10 章を締めくくる短い出来事を見ていきます。これは、受難週と呼ばれる、イエスの生涯の最期の一週間の前に起きた最後の出来事です。来週からは 11 章に入ります。伝統的にパーム・サンデーと呼ばれる、イエスがエルサレムに入城される場所を見ますが、マルコによる福音書の残りの部分は、イエスの生涯の最期の週について描かれています。ここで語られるこの最後の奇跡は小さく見えますが、それ以前に起こったすべてのことを踏まえて、見ていかなければなりません。マルコによる福音書第 8 章の終わりから第 10 章にかけて、イエスは 3 回もご自分の死を予告したにもかかわらず、弟子たちはイエスが自分たちのメシアであることの意味をまだ完全に理解できていませんでした。さて、本日の箇所では、最後の奇跡として、目の見えない男が、2 つの良い目を持つすべてのキリストの弟子たちよりも、はっきりとイエスを見て、キリストの弟子となったことが描かれています。それでは、マルコによる福音書 10 章 46 節から 52 節まで、この出来事の全文を読んでいきましょう。46 さて、一行はエリコに着いた。そしてイエスが、弟子たちや多くの群衆と一緒にエリコを出て行かれると、ティマイの子のバルティマイという目の見えない物乞いが、道端に座っていた。47 彼は、ナザレのイエスがおられると聞いて、「ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください」と叫び始めた。48 多くの人たちが彼を黙らせようとたしなめたが、「ダビデの子よ、私をあわれんでください」と、ますます叫んだ。49 イエスは立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい」と言われた。そこで、彼らはその目の見えない人を呼んで、「心配しないでよい。さあ、立ちなさい。あなたを呼んでおられる」と言った。50 その人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。51 イエスは彼に言われた。「わたしに何をしてほしいのですか。」すると、その目の見えない人は言った。「先生、目が見えるようにしてください。」52 そこでイエスは言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救いました。」すると、すぐに彼は見えるようになり、道を進むイエスについて行った。

イエスのエルサレムへの旅は、終わりに近づいていました。地図で見ると分かるように、ガリラヤ地方から北上し、エルサレムにほど近いエリコまで来たことがわかります。目の見えない物乞いがイエスに叫んだ時、群衆はいつものように集まっており、イエスは弟子たちとともに町を出てエルサレムへの旅を続けようとしていました。聖書の福音書の中で、癒された人の名前が具体的に記されているのはこの箇所だけです。他のすべての癒しには癒された人の名前が記されていないので、この癒しは他の癒しと比べて、重要であることを示しています。アラム語でバルティマイは「ティマイの息子」という意味なので、マルコはおそらく、ギリシャ語で読んでいて、アラム語を知らない読者のために、その名前を入れたのだと考えられます。しかし、バルティマイの名前が記されていることは、彼がこの群衆の中で占めていた位置に比べると重要なことではないのです。彼は「道端に座っていた」と 46 節には書かれています。彼は社会から追放され、目が見えないために疎外された人間だったのです。彼は道を歩く群衆の一員ではなかったのです。日本ではおなじみの、目の不自由な人のための歩道の点字ブロックもありませんでした。道路の横断歩道には、彼らの横断を助ける自動音声もありませんでした。彼らは社会から取り残され、道端で物乞いをせざるをえなかったのです。この箇所からわかるのは、この道に入ることができず「道端にいる」しかなかった人が、最後には、「道の中にいる」人になることができたという点なのです。英語で使われている「道 (Way)」はギリシャ語では同じ単語が使われており、ここでの全体的な考え方の中で重要な点は、アウトサイダー（道の外にいた人）が最後にはインサイダー（道の中にいる人）になるという点なのです。

この時、イエスが向かっておられることを聞きつけ、アウトサイダーであったバルティマイが、イエスに呼びかけ始めます。ここで彼が呼びかけに使った言葉が、非常に重要です。彼は、47 節に書かれている通り、「ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください」と言いました。バルティマイが使った言葉は、イエスがメシアであることをすでに信じており、メシアがもたらしてくれる癒しを切実に求めていることを示しています。「ダビデの子」という表現は、キリストが誕生する少なくとも 100 年以上前から、メシアを指す言葉として使われていました。もちろん、これは

神がダビデと交わした契約に基づくもので、その契約で神は、彼の子孫がイスラエルの王座に永遠に君臨すると約束されたのです。第二サムエル記7章16節には次のように書かれています。¹⁶ **あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。**』ユダヤの民は、メシア王国（メシアの再臨）をもたらし、ダビデの王位を回復するのはダビデの血筋に連なる人物であると知っていたので、イエスを「ダビデの子」と認めることは、イエスを神から選ばれた救い主、メシアと認めることでした。群衆が彼の叫びを黙らせようとしても、この絶望的な状況にあった男は叫び続けたのです。48節には次のように書かれています。**多くの人たちが彼を黙らせようとたしなめたが、「ダビデの子よ、私をあわれんでください」と、ますます叫んだ。**

多くの場合、私たちの信仰を駆り立てるのは絶望なのです。自分の人生は自分の努力と能力でどうにかなると思っている限り、私たちはイエス・キリストへの信仰を拒み続けるでしょう。しかし、私たちが自分自身の限界に達し、すべての努力が失敗に終わり、この世のいかなるものも私たちに真の永続的な癒しをもたらすことはできないと悟ったとき、言い換えれば絶望したとき、私たちはようやく、イエスを信じ、イエスに従うことができるのです。なぜなら、私たち自身の努力によって神に捧げることができる最善のものは、神を完璧に讃えるという神の要求にはまだはるかに及ばないと私たちが知る時、はじめて、イエスが私たちにとってすべてとなるからなのです。自分たちが迷える羊であり、罪人であるという私たちの真の状態を、私たちが受け入れる事ができるのです。つまり、ローマ人への手紙3章23節、「**すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**」という言葉を受け入れる事ができるのです。バルティマイが自分の能力不足と神の介入の必要性を認識していたことは、彼の「憐れみ」を求める姿に表れています。神の憐れみとは、神の民に対する優しさです。私たちは、聖書の中で神の民のために神が介入されるすべての時に、神の憐れみを見ることができます。そして、通常、神の憐れみを目にするとき、それは恵みという別の形で現れます。憐れみとは神の優しさですが、恵みとは、その優しさを受けるに値しない人々に対してその優しさを示すことです。ローマ人への手紙3章23節にあるように、私たちは罪人であるので、神の優しさを受けるに値しないのです。しかし、神は私たちに憐れみを示すことを選ばれ、私たちが受けるに値しない恵みを与えてくださるのです。そして、神が私たちに憐れみと恵みを示してくださる究極の、そして最も素晴らしい、分不相応な方法が救いです。エペソ人への手紙2章8節から9節には次のように書かれています。この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。9行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。

この目の見えないバルティマイは、物理的な盲目さのために絶望していましたが、私たちは皆、気がついていないかもしれませんが、罪による霊的な盲目さに苦しんでいるのです。例えば、クリスチャンであっても、私たちの人生にまだ存在する罪に打ち勝つためには、神の恵みと憐れみを、絶対的に必要としていることを忘れ始める時があります。だからこそ、教会と聖霊が私たちの人生には必要なのです。他の人々を通して、また聖霊の確信を通して、キリスト・イエスを通して私たちに与えられた神の恵みによって、私たちの人生においてまだ罪が存在すること、またその罪を死に追いやる必要があることを、絶えず私たちに思い起こさせてくださります。ジョン・ニュートンは、奴隷商人でしたが、キリストの信徒となり牧師となった人で、大英帝国における奴隷制廃止へと導いた最大の功労者の一人です。彼は、私たち誰もが神の恵みを切実に必要としていることをとらえた美しい言葉を、（アメージンググレースの讃美歌として）残しました。「**くすしき恵み（アメージング・グレイス）、くすしき恵み我を救い！迷いし身がたちかえりぬ。**」ここに描かれているのは、神の恵みが常に必要であること、また、その恵みから離れては絶望的な状態に陥ることを、見失わなかった人の心のあり方です。これこそ、私たちが信仰者として養わなければならない態度であり、恵みを必要としていること、そして自分自身を救うために何もできないことを決して忘れてはならないのです。これは目の見えないバルティマイの姿であり、私たちの姿でもあるべきなのです。

そして、イエスが私たちの真の信仰に必ず答えてくださると信じることができるのです。49節には次のように書かれています。イエスは立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい」と言われた。そこで、彼らはその目の見えない人を呼んで、「心配しないでよい。さあ、立ちなさい。あなたを呼んでおられる」と言った。もしあなたが、神の前で自分の絶望的な状態を認め、心の底から来る信仰の声で叫んでいるなら、イエスはあなたの信仰を拒絶することなく、必ず答えてくださると確信できるのです。ヨハネの福音書6章37節には、「37 父がわたしに与えてくださる者はみな、わたしのもとに来ます。そして、わたしのもとに来る者を、わたしは決して外に追い出したりはしません。」と書かれています。この箇所では、神の視点と人間の視点の両方から、救いのためにイエスのもとに来ることが述べられています。救いは最初から最後まで神の業なのです。神は、ご自身の意志によって、選ばれた人々を救いに決めてくださります。つまり、父なる神が選ばれた人々をイエスのもとに来るようにしてくださるのです。つまり、神が選ばれた人をイエスに与えるのは、父なる神なのです。私たちはこの真理を、昔から「不可抗的恩恵 (Irresistible Grace)」と呼んでいますが、もっと適切な言葉は「有効召命 (Effectual Calling)」でしょう。神が選ばれた人たちは、イエス・キリストを信じることによって、神の恵みに応えるのです。しかし、私たちの視点から見れば、私たちはイエスのもとに来ることを選んでいるように見えます。そして、イエスは、ご自分のもとに来る人を決して追い返したり、追い払ったりはしないと約束されているのです。今日ここにいる、イエスが必要だと気づいているみなさんにとっては、これは素晴らしいニュースでしょう。その望みは、あなたの人生における神の御業だからこそ存在するのであり、あなたが何をしたとしても、イエスはあなたを受け入れてくださることを示しているのですから。あなたがしなければならぬことは、聖霊があなたに気づかせている罪を悔い改め、イエス・キリストを信じる信仰の賜物を使っていくことなのです。

これが、このバルティマイという男に起こったことでした。イエスが自分に応えてくださると理解するや否や、彼は即座に行動しました。50節から51節には次のように書かれています。50 その人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。51 イエスは彼に言われた。「わたしに何をしてほしいのですか。」すると、その目の見えない人は言った。「先生、目が見えるようにしてください。」イエスのこの質問は、私たちが立ち止まり、考える必要があるところです。なぜなら、これはほんの数節前にイエスがヤコブとヨハネに尋ねたのと同じ質問だからです。マルコによる福音書10章36節で、イエスはヤコブとヨハネに次のように質問しています。マルコの福音書10章36~37節 36 イエスは彼らに言われた。「何をしてほしいのですか。」しかし、この質問の後、二人の答えは、バルティマイの行動とは大きく異なっています。マルコによる福音書10章の37節を見ると、ヤコブとヨハネは信じられないような栄光を求めたことが分かります。37 彼らは言った。「あなたが栄光をお受けになるとき、一人があなたの右に、もう一人が左に座るようにしてください。」これに対して、マルコによる福音書10章51節では、バルティマイはただ健康になることを求めています。その目の見えない人は言った。「先生、目が見えるようにしてください。」この非常に単純な願いの中にも、この男がイエスが神であるということを知っている、その信仰が表れています。英語の訳では、このフレーズにおける実際の敬意が不明瞭になってしまっています。先生を意味する単語として英語ではラビ (Rabbi) が使われており、これはユダヤ教の教師に対する一般的な単語で、敬意を表していましたが、原語で使われているのはラバウニ (Rabbouni) という単語でした。この単語は、個人を指す言葉としてはほとんど使われず、祈りの中で神を指す言葉として何度も使われてきました。ラバウニという単語を使っているということから、バルティマイがすでにイエスに深い尊敬と信頼を抱いていたことが分かります。彼は、イエスを偉大なる師として、主として、見つめているのです。物理的にイエスを見ることができない盲人が、信仰の目でイエスを見つめ、肉体的な癒しだけでなく、霊的にも癒しをもたらす神としてイエスを全面的に信頼していることが分かります。そして、52節のバルティマイに対するイエスの応答で言及されているのは、霊的な癒しなのです。52 そこでイエスは言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救いました。」以前にも触れたことがありますが、ここでの「救いました (英語の場合は、健康になるという意味の Well が使われています)」という言葉は、肉体的な健康だけを指しているわけではありません。霊的に「救われた」と

いう意味も持っているのです。つまり、イエスはバルティマイ、あなたの信仰があなたを救った、とされているのです。

そして、バルティマイのとった行動に見られるのは、この癒しが肉体的な癒し以上のものであったという事実です。イエスはバルティマイに「さあ、行きなさい」と言われました。ですから、バルティマイはどこへ行くのも自由だったのです。しかし、目が見えるようになったバルティマイは何をしたのでしょうか。52節は次のように締めくくられています。すると、すぐに彼は見えるようになり、道を進むイエスについて行った。バルティマイはどのような道を選んだのでしょうか？彼はイエスの道を選びました。バルティマイの信仰は、彼が今、イエスに従っている点に証されています。クリスチャンであるということは、キリストに付き従う者になるということで、バルティマイはイエスを信じた結果、キリストの道が彼の道となりました。そして、ここで重要なのは、彼が今、イエスに従って歩んでいるこの道が、どこに通じているのかを思い出すことなのです。エルサレムへの道は十字架へと続いていたのです。また、ヤコブとヨハネ、そして他の弟子たちが信じていたのとは違って、エルサレムには玉座ではなく、十字架と墓がありました。つまり、この道は栄光につながる道ではなく、苦しみにつながる道でした。イエスはすでにこの道を、ご自分に従うために「十字架を負うこと」と定義しています。マルコの福音書 8章 34節では、「34 それから、群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」と書かれています。そして、これは今日私たちが直面する問題につながっています。信仰を持っていると宣言しながらも、イエスに従った痕跡が生活の中にみられない人々がいます。彼らは、キリストを信仰していると言っていますが、(イエスに付き従って) 変えられた生活をしていないのです。彼らは罪から解放された人生を送ろうとはしていないのです。彼らは、セックス、アルコール、食べ物、娯楽、ドラッグ、お金、人間関係、権力など、数え上げればきりがありませんが、自分たちの肉欲を満足させようとしているのです。彼らは、地元の教会に神の民とともに集い、神の御言葉、説教を聞くために、時間を取ったりはしません。彼らは、職場で、(キリストを知らない) 同僚たちとまったく同じ態度で仕事をします。彼らは、福音の偉大な知らせを他の人に伝えようとはしません。しかし、彼らはまだ自分はクリスチャンだと言い続けていますし、キリストに従う私たちの中には、彼らの生活にキリストに従っている兆候が見られないという事実を彼らに突きつけるのではなく、彼らの信仰を肯定し続ける者もいるのです。このバルティマイの物語に見られる真理は、弟子となること(変えられた生活を送ること)に導かれない信仰は、真の信仰ではないという点なのです。あなたがキリストを主であり救い主として本当に受け入れるとき、イエスの道はあなたの道になるのです。ここでみなさん自身に問うてほしい質問は次のようなものです。イエスに従うことで、私たちの人生は毎日、変えられている、刷新されているのでしょうか？親として、息子として、娘として、夫として、妻として、従業員として、市民として、隣人として、友人として、私たちはイエスに従い、イエスの道を歩んでいるので、毎日変えられているのでしょうか？最後に、私たちは、その道がエルサレム、つまり十字架に繋がっている、迫害と痛みと苦しみに通じていると知っても、喜んで、イエスにつき従うことができるのでしょうか？道が険しくなっても、彼の足跡をたどっていけるのでしょうか？来週からの(聖書箇所は)エルサレム入城から最終週が始まり、誰が本当の弟子であるかが試される最終試験を扱っていきます。私たちはイエス・キリストの弟子として、その試験に合格することができるのでしょうか？では、祈りましょう。

Mark 10:46-52 the blind disciple

Today we are going to look at a short event that concludes Mark 10 in Mark 10:46-52. This is the last event that we see take place before the final week of Jesus's life we know as Holy Week. Starting next week as we begin chapter 11 and see Jesus entering the city of Jerusalem in what we traditionally call the triumphal entry and Palm Sunday, the rest of the book of Mark is the final week of Jesus's life. While this final miracle that we are told about in this book seems small, we have to see it in light of everything that has come before it. Remember that from the end of chapter 8 to chapter 10 of Mark, Jesus has foretold his death now three times, and his disciples have shown after each time that they still don't fully understand what it means that he is their Messiah. Now, in one final miracle, a blind man sees Jesus more clearly than all the rest of Christ's followers, including his 12 disciples, who have 2 good eyes, and becomes a follower of Christ. Let's begin by reading this event in its entirety from Mark 10:46-52. **46 And they came to Jericho. And as he was leaving Jericho with his disciples and a great crowd, Bartimaeus, a blind beggar, the son of Timaeus, was sitting by the roadside. 47 And when he heard that it was Jesus of Nazareth, he began to cry out and say, "Jesus, Son of David, have mercy on me!" 48 And many rebuked him, telling him to be silent. But he cried out all the more, "Son of David, have mercy on me!" 49 And Jesus stopped and said, "Call him." And they called the blind man, saying to him, "Take heart. Get up; he is calling you." 50 And throwing off his cloak, he sprang up and came to Jesus. 51 And Jesus said to him, "What do you want me to do for you?" And the blind man said to him, "Rabbi, let me recover my sight." 52 And Jesus said to him, "Go your way; your faith has made you well." And immediately he recovered his sight and followed him on the way.**

Jesus's journey to Jerusalem has almost come to an end. **You can see on the map that they have made their way from the area of Galilee up north to now Jericho**, which is very near Jerusalem. The crowds have gathered around as usual, and he is walking with his disciples out of the city, continuing the journey to Jerusalem when a blind beggar yells out to him. This is the only time where we are given the name of the person who is healed in the Gospels in the Bible. All the other ones are nameless, so this healing must be significant far beyond the other healings that took place. Bartimaeus in Aramaic actually mean "Son of Timaeus" so Mark probably puts that in there for the sake of readers who are reading in Greek and don't know the Aramaic name there. But Bartimaeus's name is not as important as his position in this crowd. He was **"sitting by the roadside."** He was an outcast from society, a marginalized person because of his blindness. He was not part of the crowds walking on the road. There were no raised yellow guides on sidewalks like we are so familiar with here in Japan to help the seeing-impaired to get around the city. There were no automated voices at road crossings to help them get across. Their disability caused them to truly be left out of society, begging on the side of the road. What we will see is that this position of being "by the roadside" is contrasted with being "on the way" at the end. Way and road are the same word in Greek, and the whole idea here is that the outsider has become an insider at the end of the story.

At this point, though, Bartimeus, the outsider hears that Jesus is on his way, and begins to call out to Jesus. The words he says here are very important. He says, **"Jesus, Son of David, have mercy on me!"** Bartimeus's words here show that he already believes that Jesus is the Messiah, and he is desperate for the healing that the Messiah can bring him. Son of David is a term used from at least 100 years before Christ's birth to

designate the Messiah. Of course, this is based on the covenant that God made with David where he promised that his descendent would reign on the throne of Israel forever. [2Samuel 7:16](#) says, [16 And your house and your kingdom shall be made sure forever before me. Your throne shall be established forever.](#)” The Jewish people recognized that it would be a man in David’s lineage that would bring in the Messianic kingdom and restore the throne of David, so to recognize Jesus as the Son of David was to recognize his identity as the chosen Savior from God, the Messiah. Even with the crowd trying to silence his cries, this desperate man continues to cry out. Verse 48 says, [48 And many rebuked him, telling him to be silent. But he cried out all the more, “Son of David, have mercy on me!”](#)

Many times it is desperation that drives our faith. As long as we think we have our lives handled by our own efforts and abilities, we will reject faith in Jesus Christ, because we don’t think we need him. But when we reach the end of ourselves, where all of our efforts have failed, and we realize that nothing in this life can bring us true lasting healing, in other words when we are desperate, then we can really believe and follow Jesus. Because he becomes everything to us, when we recognize that the best we can offer ourselves or to God from our own efforts still falls far short of God’s requirement of glorifying him perfectly. The weight of our true condition of lostness and sin becomes real for us. And we accept the words of [Romans 3:23](#) [for all have sinned and fall short of the glory of God...](#) The fact that Bartimeus recognized his lack of ability and his need of God’s intervention is seen in his cry for “[mercy.](#)” God’s mercy is His kindness towards his people. We see his mercy in all the times he intervenes on behalf of his people in the Bible. And usually when we see God’s mercy it is in the form of another word called grace. Mercy is God’s kindness, but grace is showing that kindness towards those who do not deserve it. And the truth is that none of us deserve God’s mercy because of what [Romans 3:23](#) tells us – that we are sinners. But God chooses to show us his mercy, to extend grace to us that we do not deserve. And the ultimate and most wonderful and undeserved way that he demonstrates his mercy and grace towards us is in salvation. [Ephesians 2:8-9](#) tells us, [For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God, 9 not a result of works, so that no one may boast.](#)

The blind man Bartimeus was desperate because of physical blindness, but what most in this world don’t realize is that we are all desperate because of spiritual blindness caused by our sin. Even as Christians, we can begin to forget this desperation for God’s grace, this need of God’s mercy, to overcome our sin that is still present in our lives. That is how God uses the church and the Holy Spirit in our lives. He continually reminds us through other people and through the conviction of the Holy Spirit of the sin that we still need to seek to put to death in our lives through the grace of God extended to us through Christ Jesus. [John Newton, the slave trader who became a follower of Christ and Pastor and was instrumental in leading the way to the abolishment of slavery in the British Empire penned the beautiful words that capture the desperate need all of us have for God’s grace. Amazing Grace how sweet the sound that saved a wretch like me! I once was lost, but now am found, was blind, but now I see.](#) This is the heart of a man who never lost sight of his need of God’s grace, and the desperate state that he was in apart from that grace. This the attitude that we need to cultivate as believers to never forget our need for grace and our inability to do anything to save ourselves. This is the state of the blind man, Bartimeus and our state as well.

And we can trust that Jesus will always answer true faith. In verse 49 we read, **And Jesus stopped and said, "Call him." And they called the blind man, saying to him, "Take heart. Get up; he is calling you."** You can be certain that if you are crying out the cry of faith that comes from a heart of desperation at your condition before God, Jesus will answer you and not reject your show of faith. **John 6:37 says, All that the Father gives me will come to me, and whoever comes to me I will never cast out.** Notice that this passage shows coming to Jesus for salvation from both God's perspective and man's. Salvation is from start to finish a work of God. He predestines those he elects by his sovereign will for salvation. So it is God the Father who causes those he chooses to come to Jesus. In truth then it is the Father who gives them to Jesus. We call this truth historically "Irresistible Grace" but a much better term for it is "Effectual Calling." Those God has chosen will respond to his grace by turning in faith to Jesus Christ. But from our perspective it looks like we are choosing to come to Jesus, and we are promised that Jesus will never turn away or cast aside those who come to him. This is great news for anyone in here today who is realizing that you need Jesus. That desire is there by God's work in your life, and no matter what you have done, Jesus will accept you. All you have to do is repent of your sin that the Holy Spirit is making you aware of and exercise the gift of faith he will give you in Jesus Christ.

This was what happened for this man Bartimeus. As soon as he understood that Jesus was responding to him, his actions were immediate. Verse 50 tells us, **And throwing off his cloak, he sprang up and came to Jesus. 51 And Jesus said to him, "What do you want me to do for you?"** And this question that Jesus asks is where we need to pause. Because it is important for us to see that this is the same question that Jesus asked James and John just a few verses earlier. In **Mark 10:36**, Jesus answers James and John, **36 And he said to them, "What do you want me to do for you?"** But after that question, the two answers differ greatly. When we look at **verse 37, here in Mark 10**, we see James and John ask for incredible glory. **...And they said to him, "Grant us to sit, one at your right hand and one at your left, in your glory.** But here in **Mark 10:51**, Bartimeus simply asked for normal health. **And the blind man said to him, "Rabbi, let me recover my sight."** And even in this simple request, we see the man's faith in who Jesus is as God. The English obscures the actual respect in this phrase. Rabbi was the common word for a Jewish teacher and was respectful, but the word used in the original language here is Rabbouni. It was rarely used to address a person and was reserved many times for addressing God in prayer. It showed the deep respect and trust he had in Jesus already, as he looks to him now as his great teacher or master and Lord, even. Again, we see a blind man who cannot physically see Jesus, but looks at Jesus with eyes of faith, and fully trusts him as the God who can heal him, not only physically but spiritually. And it is the spiritual healing that we see Jesus refer to in his response to Bartimeus in verse 52. **And Jesus said to him, "Go your way; your faith has made you well."** I've mentioned this before, but the word for "well" here is not just physical wellness. It is the word for "saved" spiritually. So, Jesus was saying, Bartimeus, your faith has saved you.

And what we see in Bartimeus's response is that this this healing was far more than physical. Notice that Jesus said to him, **"Go your way..."** Bartimeus was free to go wherever he wanted to go. But what do we see in Bartimeus now that he can see. Verse 52 ends telling us, **And immediately he recovered his sight and followed him [Jesus] on**

the way. So what way did Bartimeus go? His way was Jesus's way! The proof of his faith was that he was now following Jesus. To be a Christian is to be a follower of Christ, and Bartimeus's faith resulted in Christ's way becoming his way – he was a follower! And this is where it is important to remember where this road is leading that he was now following Jesus on. This road to Jerusalem was leading to the cross. Unlike James and John and the other disciples seemed to believe, Jerusalem would not hold a throne but a cross and a tomb. So this road was a not a path of glory, but a path of suffering. Jesus has already defined this road as “taking up a cross” to follow him. [Mark 8:34](#) said, “[If anyone would come after me, let him deny himself and take up his cross and follow me.](#)” And this leads us to a modern problem, those who proclaim that they have faith, but show no signs in their life of following Jesus. They want to claim Christ, but not have a changed life. They have no desire to live a life free from sin. They seek to gratify their flesh in many of the same way the world around them does, sex, alcohol, food, entertainment, drugs, money, relationships, or power, and the list could go on. They have no desire to gather with the people of God in a local church and sit under the preaching of the Word of God. They do business in their place of employment in exactly the same way that all their fellow co-workers do. They have no desire to tell others the great news of the gospel. But they still say they are Christians, and some of us who are followers of Christ continue to affirm their faith rather than confronting them on the fact their life shows no sign of it. The truth found in this story of Bartimeus is that faith that does not lead to discipleship is not saving faith. The Jesus way will become your way when you really accept Christ as your Lord and Savior. So, the question for us today is this. Has Jesus changed our life? Are we different as parents, sons, daughters, husbands, wives, employees, citizens, neighbors and friends because we are following Jesus and going his way? Finally, knowing where that way is leading, are we willing to follow him when that road leads to Jerusalem, it leads to a cross, it leads to persecution and pain and suffering? Will we still be following in his footsteps when the road gets hard? Next week with the entry into Jerusalem begins the final week, the final exam that will test who is a real disciple. Will you and I pass that test as a follower of Jesus Christ? Let's pray.